

江戸川
乱哉



久家ストレイドワス

Vol. 104

2024.3

「キヤウチ」

CATCH

西東京市図書館

本の動物園



動物たちが登場する物語を紹介します！

『片耳うさぎ』

大崎梢／著 光文社

みなさんは、うさぎといったらどんなイメージがありますか？きっと、ふわふわで可愛らしいという印象を受ける方も多いのではないのでしょうか。ですが、この本の中でうさぎは、不吉な存在として登場します。ひと味違った「うさぎ」をぜひお楽しみください。

この本の主人公は小学5年生の奈都^{なつ}。とある事情で、父の実家である大きなお屋敷で、両親と離れて暮らすことになってしまいます。その上、このお屋敷には「片耳うさぎ」をめぐる不吉な言い伝えがあるらしいのです。オカルト好きの中学生さゆりに引っ張られ、お屋敷の謎を解こうと奮闘します。

この本の魅力は、ミステリーでありながらあふれ出るわくわく感です！隠し部屋を見つけるため、お屋敷中を探検するシーンでは、思わず心が躍ります。まるで自分も小学生になった気分、物語の展開に好奇心がくすぐられます。意地の悪いお屋敷の人々や、不吉な言い伝えに最初はビクビクしていた奈都ですが、最後には果敢に謎に立ち向かいます。その姿は目を見張るものがあります。

この物語は、わくわくする展開やキュートな表紙も相まって、ミステリーが苦手な人でもさくさく読めると思います。「ふわふわで可愛らしいさぎ」が好きな方にこそ、ぜひおすすめしたい1冊です。

『^{きば}白い牙』

ロンドン／著 深町眞理子／訳 光文社

この物語の主人公は犬の血を4分の1引く狼のホワイト・ファング。アラスカの荒野で生まれ、インディアンのグレイ・ビーヴァーに拾われると、厳しい自然と人間社会との間でたくましく狡猾な狼に成長していきます。

自然と人間の過酷さに揉まれ、野生の血を研ぎ澄まし抜け目ない性格となったホワイト・ファングは生涯で3人の主人と出会います。厳しい罰を与えて強力な主従関係を築いたグレイ・ビーヴァー、生き物をモノとして扱いホワイト・ファングから最も憎まれたビューティー・スミス、愛と優しさで生涯の信頼関係を築いたウィードン・スコット。彼らとの関わりを通じて、ホワイト・ファングは次第に人間社会に順応していきます。

自然と人間の間で繰り広げられるホワイト・ファングの数奇な運命が、臨場感あふれるタッチで描き出されます。

ちなみに・・・同じくロンドン作品の『野性の呼び声』は、人間に飼われていた犬が荒野で野生の血を目覚めさせるというストーリーで、『白い牙』とは対照的です。動物達の波瀾万丈の物語、ぜひ手にとってみてください。

『絵本「旅猫リポート」』

有川浩／文 村上勉／絵 文藝春秋

「わがはいは猫である。名前はまだない。____とおっしゃったえらい猫がこの国にはいるそうだ。」

そんな書き出しから始まるリポート。この本は、とある青年、サトルに飼われている猫、ナナの視点から、サトルの半生を描いた本となっている。

始まりは5年前、ナナがまだ野良猫だった時。ある日車にはねられて重症を負ったナナ。そんな彼を助けたのが、サトルだった。そして、ひょんなことからナナはサトルに飼われ、ナナという名前をもらうこととなる。最初こそ野良猫であることに誇りを持ち、サトルに飼われることを執拗に嫌がっていたが、5年という月日がお互いの心の距離を縮めていき、いつの間にか彼らは幸せな日々を送るようになっていった。

そんなある日、とある事情からサトルがナナを飼えなくなってしまう。1人と1匹はナナの新たな飼い主を探し、サトルの人生に深く関わった人たちを巡って、最後の旅に出る。

この本の特徴はなんといっても、猫という視点から人間を描くことによって普段とは違った見方で人間を見ることが出来る点である。人間であるサトル目線ではなく、猫であるナナ目線からサトルの人生を振り返ることで、後半の展開に更に引き込まれるようになっている。

後半へと読み進めていくにつれ、前半の旅の意味がわかってきて、最後のシーンは読み進めた話の全てが心に重く残るような気持ちになる。物語も短

いため、サクッと読めるのもポイントである。猫から見る人間。人間ではない視点から、一度世界を見渡すのも面白いのかもしれない。

『平面いぬ。』

おついち
乙一／著 集英社

今回は「動物が登場する物語」がテーマですが、私はここで皆さんに少し奇妙な動物を紹介しようと思います。その動物の名前は「ポッキー」、動物としては犬にあたるのですが、なんとこのポッキー、人間の皮膚の上に住む平面の犬なのです。

本のタイトルにもなっている本作「平面いぬ。」は、そんな奇妙な犬が肌に住み着くようになった少女・鈴木を主人公とした作品となっています。第への劣等感から父母との間にも溝を作るようになってしまった鈴木は、自身の肌に住み着いたポッキーを観察・世話していくうちに徐々にこの不思議な犬と心の距離を縮めていきます。そんな最中、突如家族から「自分以外の家族が半年後に病気で死ぬ」という衝撃の事実を告げられます。肌に住み着いたポッキーと死期が近づいていく家族、双方と向き合うことを迫られた鈴木は苦悩しながらも、自分なりの向き合い方を模索していくことになります。

この本は表題作の他にも3作が収録された短編集となっており、どの作品もどこか現実から浮いた不思議な雰囲気をもった魅力的な作品となっています。気になった方は、是非手に取ってみてください。

『午後の恐竜』

星新一／著 新潮社

人間も動物に含まれますか？もし含まれるのなら、この本は間違いなく傑作です。ショート・ショートの草分け、星新一が描くシニカルでユーモラスな超・短編 SF 小説で、少し(だいぶ)おかしい人間たちを見てみましょう。

とある星に派遣され、そこの総督に就任した男。その星での任務は、住民の文明レベルをテレビ文明期（テレビを眺めて楽しむようになる段階）にまで引き上げること。テレビ放送が開始されれば、それにのせてコマーシャルを流せて、結果この星は、地球の商品のいい販路に成長する。そう目論み、その星の住民に文字を教えて教育を行ったり、武器を持たせて戦いを促したりしたのだが、これが全かうまくいかなかった（「エデン改造計画」）。

看護師に連れられて、エフ博士の診察室に入ってきたのは、コマーシャル・ソングを繰り返し口ずさむ女患者。正気の人間だって、コマーシャル・ソングを無意識に口ずさんでしまうことはあるのだから、この女患者だってありふれているといえそう。しかし、エフ博士は狂的体質の専門医。ここに送られてくる患者は、はるかに高度な狂的患者だ。つまり、歌は歌でも、伴奏つきなのだ。ギターとアコーディオンとピアノの伴奏つきの、甘いメロディーの歌が、患者の口から流れ出ていた（「狂的体質」）。

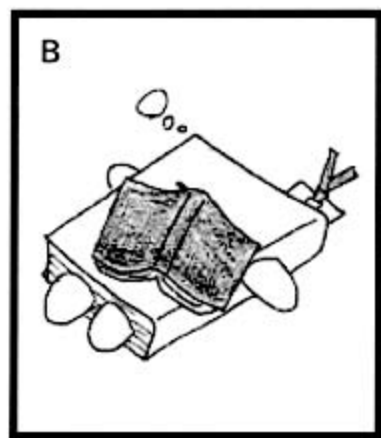
その他にも、表題作「午後の恐竜」、「契約時代」、「おれの一座」など珠玉の11編が収められており、最短9ページで読み終えることができます。出版は1977年と古いですが、星新一が描く近未来は、かなり現実めいています。ぜひ一度、星新一のブラック・ユーモアを味わってみてください。

YA!YA!ひろば

図書館内に設置してあるYA!YA!ポストに投稿してくれたYA!YA!ペーパーを紹介します。イラストが描くのが好きな人、得意な人はぜひ投稿してみてくださいね☆彡

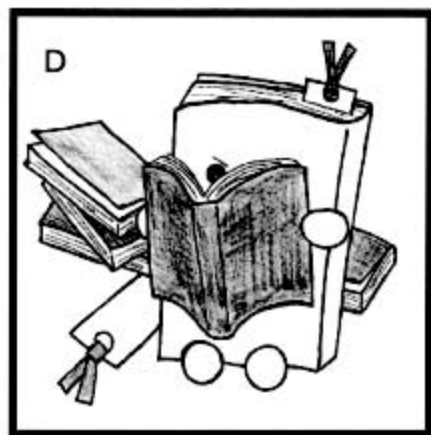
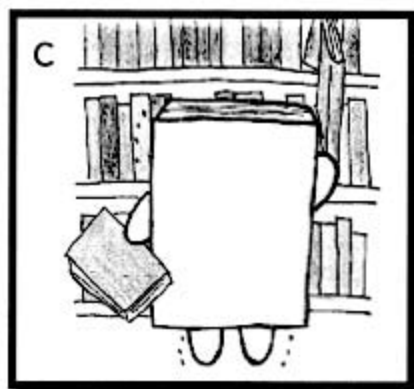


A:ペンネーム:あやな(中学2年生)



B~C:

ペンネーム:はな(中学2年生)



本号の表紙イラスト… ペンネーム:ひな鳥(小学6年生)

共同編集者のつばやき
～編集後記に代えて～

あっという間に3月になりました。今回は、編集者たちに特集にちなんで、自分を動物に例えると何か、そして春で一句、詠んでいただきました。読者のみなさんも一緒に考えてみてくださいね。

①ペンネーム

②自分を動物に例えると

③春で一句

① ブロッコリー

② ゴリラ（後輩情報）

③ 暖かな 風と流るる 「またいつか。」

① にちわ

② 亀

③ 雪どけと ともに顔出す 新学年

① りほ

② 願望はパンダですが、現実は・・・何だろう??分かりません（苦笑）。

③ ほんとうに 終わってしまうの 3学期

一年が終わるのはあっという間ですよ。受験が見えてきて震えています。

① アオイ

② 亀

③ 春為れど 我が世の春へは もう一歩